

第2部

様々な現場から

モデレーター

関鎮京 MIN Jinkyung

北海道教育大学 准教授



韓国出身。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学専攻修了。博士（学術）。専門は文化政策。在留外国人に対する差別や排除を生み出す社会構造の変革に向け、文化政策の視点から取り組む必要性を強く認識し、「多文化共生 × アート」の実践的な取り組みに着目。全国各地でフィールドリサーチを重ねている。主な論文に、関・南田・林（2025）「JAPAN LIVE YELL project『やさしい日本語落語』における劇場職員の意識変容に関する探求的検討」、関・朝倉・南田（2021）「日本における在留外国人を対象とした文化政策の現状と課題」などがある。現在、日本文化政策学会理事長を務める。

報告者

中島 法晃 NAKASHIMA Houkou

美術家

東京藝術大学彫刻科卒業、名古屋大大学院教育人類学領域修了。東海地方を拠点に、アートを社会にひらく実践を展開。2019年より多国籍団地・愛知県豊田市保見で1,000人超の住民と協働し、文化や習慣の壁を超えて生活の場にアートを根付かせてきた。2024年から公益財団法人福武財団の助成を受け、多文化共生 × アートの可能性を全国へ発信している。



関根 好香 SEKINE Yoshika

俳優

国立音楽大学音楽学部音楽教育学科音楽教育専攻リトミック専修卒業。俳優として様々なスタイルの舞台に携わりながら、自ら演じるだけでなく、演劇ワークショップのファシリテーターとしても活動している。誰であれ、伸び伸びと自己を表現し、お互いを認め合うことができるように、との思いでワークショップに取り組み、未就学児から小・中学生（特別支援教室や不登校児支援施設など）・大人を対象とするだけでなく、近年は外国にルーツのある人たちとの共創の場へと活動を広げている。日本演出者協会協会員。演劇ユニット思考動物所属。



T-ART 勉強会



多文化に対応するファシリテーションやアクティビティを実際に体験する勉強会をワークショップ形式で行います。身体を通して学び、実践に活かせる気づきや発見が得られる機会となることを目指しています。

記念すべき第一回の勉強会では、本田千恵子氏をファシリテーターに迎え、長年、外国につながる方々が対象の様々なワークショップで培われたノウハウを惜しみなく共有していただきます。「やさしい日本語を使う」だけにとどまらない多文化ファシリテーションのマインドとスキルを、具体的なアクティビティを通して体験していただきます。

ファシリテーター

本田 千恵子

HONDA Chieko

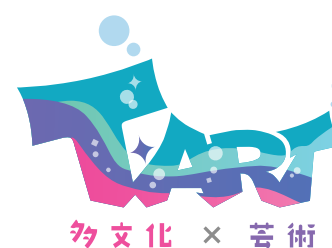


日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒。文学座附属演劇研究所を経て、26年間兵庫県立ピッコロ劇団員として俳優、ファシリテーター、司会等活動。ピッコロ演劇学校主任、甲南女子大学専任、大阪芸術大学、関西学院大学等で20年講師、兵庫県行政特別研修、兵庫県高等学校初任者研修、豊岡市役所新任研修、にほんごであそぼう等WS、のじぎく兵庫国体開会式、ひょうご文化交流のつどい等司会者。日本劇団協議会教育事業部員、日本語教師資格取得。やさしい日本語指導者。座・高円寺劇場創造アカデミー担当。平成27年度兵庫県芸術奨励賞受賞。

お問合せ



堀江（ほりえ）／長江（ながえ）
電話：080-4187-9892 E-Mail：pcamp@tjf.or.jp



アートの力で多文化共生社会づくり!!

FORUM 2025

Launched by TJF
since 2025!!

つながる

学び合う

共創する

「多文化 × 芸術」ネットワーク

T-ART フォーラムの詳細はこちら▶



実施目的

①

芸術の力を活かした多文化共生社会づくりの実践活動（T-ART活動）を発掘・集約・共有・発信する。

②

T-ART 活動の実践者間ネットワークを形成し、学び合いと連携を促進する。

③

T-ART 活動のリソース（人材・知見・情報の蓄積）と社会的ニーズ間の相互アクセスを促進する。

日時

11/2025 23 日・祝 10:00～16:30 (9:30受付開始)

会場

東京国際交流館（メディアホール）

〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1 国際研究交流大学村内 プラザ平成《アクセス》 ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル」東口より徒歩約3分

プログラム

① T-ART 実践報告会 10:00～12:30

【第1部】 共に創る・育てる PCAMP！

【第2部】 様々な現場から

対象：芸術の力を活かした多文化共生社会づくりに関心のある方80名募集（先着順）

② T-ART 交流 Luncheon 12:30～13:30

対象：T-ART 実践報告会の参加者で交流を希望の方

※交流会場にて実践報告会登壇者及び関連団体によるT-ART 活動の展示があります。

③ T-ART 勉強会 13:30～16:30

対象：T-ART 実践報告会の参加者の中から20名募集

※定員枠を超えた場合は抽選で20名まで見学できます。

参加費

- ☒ ①のみ又は①②両方参加の方 …… 1,000円
- ☒ ①②③のすべてに参加の方 …… 3,000円
- ☒ ①②に参加し③を見学の方 …… 2,000円

※参加費は会場受付にて現金払いをお願いします。

募集期間

2025年10月1日(水)～11月11日(火)

主催

公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)

参加申込はこちらから



T-ART 実践報告会

芸術の力を活かした多文化共生社会づくりという共通目標のもと、各地の団体やアーティストの実践活動を紹介し、報告者と参加者間の対話を通じて、T-ART活動に関する情報共有と理解を深めます。

第1部では、TJFが2017年度より東京・広島・富山で展開してきたPCAMPに関して、ファシリテーターを務めた演劇や身体表現を専門とするアーティスト、共同主催者など、様々な立場と視点から報告していただきます。

第1部

共に創る・育てる PCAMP!

報告者

柏木 俊彦

KASHIWAGI Toshihiko 演出家・舞台俳優



木野花ドラマスタジオ出身。2010年に第0楽章を設立、代表と演出を担う。プロデュース公演などにも、演出、俳優、ドラマタッグなど様々なカタチで参加。地域プロジェクトや海外プロジェクトの企画運営、教育機関や福祉施設でのワークショップ活動など多岐にわたり活動。近年は、さまざまなバックグラウンドをもつ人たちとワークショップや創作活動も行っている。調布市せんがわ劇場演劇ディレクター。NPO法人 SEED OF ARTS 代表。2021年よりメイン・ファシリテーターとしてPCAMPに関わる。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPは、アイデアとアイデンティティの集合体。それぞれが「する」「いる」というシンプルな構造。でも、「する」「いる」が連なり重なり支え合って、パフォーマンスは無限の広がりを見せていく。

田畑 真希

TABATA Maki 振付家・ダンサー



タバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。更なる表現を追及するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。滑稽なまでにガムシャラに、ユーモアを散りばめながら丁寧に時間を紡ぐ作風に定評があり、国内外で活動。7カ国18都市にて作品を上演し好評を得る。近年は、インクルーシブダンスWSや作品創作、様々な世代を対象としたWSを展開し、性別、年齢、国籍、障がいの有無などの差異を超えて、誰もが楽しみながらできる身体表現の促進を目指し活動中。2019年よりメイン・ファシリテーターとしてPCAMPに関わる。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPは、一人ひとりの思い出や大切にしていることを参加者同士でシェアしながら作品をつくります。仲間と分かち合う喜びがミルフィーユのように積み重なる体験の場。これがPCAMP!

坂田 光平

SAKATA Kohei 舞台俳優・舞台美術



舞台芸術制作室無色透明所属。介護福祉士。2016年より始まった舞台芸術制作室無色透明とNPO法人ひゅーるぼんとの協働事業の中で生まれた障がいのある人もない人も参加できる演劇団体「おきらく劇場ピロシマ」の旗揚げメンバー。舞台芸術を通じて子どもたち、障がいのある人たち、地域の人たちが、相互につながりながら共にいきいきとくらしていける街をめざし、演劇活動を続けている。広島在住。2022～2024年、3回にわたって開催した「ひろしまPCAMP」においてサブ・ファシリテーターを務める。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPとは、人と人が出会うだけで物語が生まれ、共に過ごし理解し合おうと一歩踏み込める体験ができる場所。

長谷川 万葉

HASEGAWA Mayo 舞台俳優・専門学校教員



宝塚歌劇団出身。青葉みちるの名で月組娘役として活躍。富山にUターン後、富山市民プラザにてコンテンポラリーダンスのワークショップや市民参加型舞台や赤ちゃんママのための広場事業を企画制作。現在は県内の専門学校に勤務。演劇的手法を使ったコミュニケーション授業を担当。その傍らミュージカルソング講座や高校合唱部にてダンス振付・指導も継続的にやっている。グローバルドラマティーチャー1級。2024年より「とやまPCAMP」のサブ・ファシリテーターを務める。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPでは仲間と共に遊び、笑い、涙しながら、相手を知り、新しい自分に出会う。4日間と短いけれど、まだ見ぬ新しい世界が広がる冒険の旅。

税光華

ZEIKO Hana 一般財団法人地域創造 職員



撮影：藤尾勘太郎

損害保険会社勤務の2019年、「AUBADE HALL Produce タニノクロウ × オール富山『ダークマスター 2019 TOYAMA』」で舞台美術製作に参加したことをきっかけに、2022年、オーバード・ホールの運営団体である公益財団法人富山市民文化事業団に入職。制作として「AUBADE HALL Produce タニノクロウ × オール富山『ニューマドンナ』」ほか、ワークショップなどを担当する。2024年、2025年、TJFと事業団の共同主催で「とやまPCAMP」を実施、現地運営を担う。現在は一般財団法人地域創造に出向中。

“私にとってのPCAMP”

PCAMPを通して新しい世界に飛び込みました! たくさんの出会いがあり、本当に楽しいです。TJFやファシリテーターとアイデアを出し合いながらつづいています。

T-ARTロゴに込められたメッセージ

- 溢れてくる生命力
- 新たに創造されていく価値観
- 子どもたちの会話が飛び交う様子



多文化 × 芸術

- 多文化と芸術の融合
- 緩やかで伸びやかなつながり
- 響き合う多様性

T-ARTは「多文化 × 芸術」の愛称。**T**は**Tabunka**(多文化)、**Teaching Artist**、TJFの頭文字から取りました。「多文化 × 芸術」事業(T-ART事業)とは、TJFが2017年度より取り組んできた「芸術の力を活かした多文化共生社会づくり事業」の総称です。この事業をTJFと共に育ててくれたアーティストの皆様と「多文化 × 芸術」ネットワーク(T-ARTネット)を2025年度に立ち上げるに当たり、T-ARTロゴを作成しました。

ロゴはデザイン・モイのアートディレクターである今泉明子氏の力作です。T-ARTのコンセプトに共感し担当者の思いも汲んで考案してくれました。今泉氏は「未来を生きる子どもたちのために多文化共生社会づ

くりにかかるTJFの志、担当スタッフ、アーティストや協力者の思いをロゴという形で表現するお手伝いができて、ワクワクした」そうです。

ロゴづくりに関わったスタッフは、完成したロゴを前にして「T-ARTが4本足で歩いている生きものみたい!」「若木が上へ上へと成長していく感じがする」「多様性がプチプチと響き合っている音が聞こえてくる!」という感想を持ちました。

T-ART事業とともにこのロゴを広く皆様に知っていただき、より多くの「芸術の力を活かした多文化共生社会づくり」の理解者、実践者が、T-ARTの仲間に加わってくださることを願っています。

